

学校教育目標	「ひびく心 はずむ体 見つめる目」 ○学習及び生活の基礎基本がわかり、問題解決する力、進んで学習する力を育てます。(知)【ひびく心】 ○豊かな人間関係を通して、他者を思いやり、望ましい判断や言動ができる力を育てます。(徳)【ひびく心】 ○健康で安全な生活を心がけ、心身ともに健やかな生活を送る力を育てます。(体)【はずむ体】 ○社会の一員として行動し、新治の地域と豊かな関わり合いができる力を育てます。(公)【みつめる目】 ○多様性を尊重し、望ましい共生社会を創る力を育てます。(開)【みつめる目】				
	創立 135 周年	学校長 川島 広子	副校長 青木 直美	2 学期制	一般学級：8 個別支援学級：3
学校概要	児童生徒数： 224 人 主な関係校： 十日市場中学校 十日市場小学校 三保小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分で判断する力〉 〈言語能力、コミュニケーション力〉 〈自他を大切にし、社会と関わる力〉	十日市場中学校 十日市場小学校 三保小学校 新治小学校	自他を尊重しながら、地域や人との関わりの中で、自ら進んで学び、積極的に社会に貢献する子ども 小中学校相互の授業参観や生徒会、部活動等の交流を図ることにより、教科交流や、各行事における児童・生徒交流を進めます。職員や生徒の小中一貫教育への理解を深め、学区小学校の子どもたちが安心し、期待感を持って中学校で学べるように努めます。小中の各担当による連携会議、地域行事(ロードレース)、交流会を核として職員間の顔の見える関係を構築するよう努めます。

中期取組目標	○新治のよさである自然環境や地域との関係性を持続して活かしながら、よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指します。 ・1年目は、新治の子どもたちに身に付けてほしい学力やコミュニケーション力について教職員間で共有し、育成するための教育活動について授業実践や研修を通して見直します。2年目は、目指す資質・能力育成のための教育活動の実践と改善に努め、3年目は考えや想いをよりよく表現し合える資質や能力の育ちを検証します。 ○3年間と通して、望ましい言動や表現ができる子の育成、学びの楽しさを実感できる教育活動の改善、地域や保護者等の学校関係者と共に育む学校づくり、全教職員のチーム力の向上の推進を図ります。
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	・重点研究では、「コミュニケーション能力を伸ばす授業づくりや単元づくり」の研究を継続し、身に付けたい力育てたい児童像を明確化し、実態に応じた各単元でのより効果的な指導方法や支援のあり方を意識した授業づくりの研究を実施していく。個の支援に対して協力体制を組みながら、きめ細かい学習支援を継続して行う。
担当 教師力を高める委員会	
徳 豊かな心	・十日市場中ブロック共通の「言葉の大切さを伝える ～心をつなぐ言葉～」に取り組み、ふわふわ言葉の大切さを意識し、相手を思いやる気持ちの育成に取り組む。・新治ラリー、運動会、わくわくデー、たてわり活動、卒業式など、同学年だけでなく、異学年の児童の交流を通してよりよい人間関係の育成に取り組む。
担当 規範意識を高める委員会	
体 健康教育	・学校保健に員会では年度ごとに児童の健康に関する課題となるテーマを設定し、年間を通して各クラスで話し合いを進め、学校全体で意識的に一つの取組を行う。・なわフェスを設定し、冬でも積極的に運動できる環境を整える。・運動委員会を中心に外でできる体力を伸ばす簡易的な運動に親しむ機会を設ける。
担当 規範意識を高める委員会	
公開 地域連携	・生活科、総合的な学習の時間の学習では、地域の資源を有効活用した授業を行う。地域ボランティアや地域コーディネーターの協力を得て学習を行うが、児童が体験的な活動を行うように、計画段階での活動を児童が行うかを明確にする。ESDの視点や総合の時間との関連を意識した年間計画を作成する。
担当 生き抜く力を高める委員会	
いじめへの対応	・いじめの未然防止・対応について、定期的に職員研修を行う。・Y-Pアセスメントやいじめに関する児童アンケートをおこない、記述の内容や結果を職員間で検討し、児童との教育相談を行う。・いじめ防止対策委員会を毎月開き、認知した案件に丁寧に対応する。
担当 児童支援専任	
人材育成・組織運営(働き方)	・ブロックごとに級外の職員が副担任として、校外学習や学年会計、行事の運営などで関わることで単級ならではの孤立感を減らし、多くの教員で指導にあたることで自然と職員同士の学び合いに向かうようにする。・メンター研修を年間計画に位置づけ、計画的な学びを進められる体制を確保する。
担当 教務部	
学校運営協議会	・学校運営協議会を定期的に開催し、学校の方針を伝えるだけでなく懇談の中で、地域と学校のこれからの関わり方を話題にすることで、地域、学校と共に未来志向の学校運営を考えていく。・授業参観や校内見学などを通して、児童や学校を地域社会ではぐんでいくために、必要な意見を積極的に聞いていく。
担当 教務部	
特別支援教育	・校内特別支援委員会を毎月開き、支援が必要な児童の実態把握や学校全体での共有化を図るとともに、必要な手立てを打てるように対策を立てる。・特別な支援が必要な児童を理解するための研修を積極的に行い、特別支援教室を有効に活用するだけでなく、どの職員でも同じように支援が行えるようにする。
担当 特別支援コーディネーター	
情報教育	・端末持ち帰りの中で、情報モラルの重要性を再確認するだけでなく、職員の研修や保護者への教室の開催などを通じて、情報モラル教育をどのような児童に指導するかを、全職員で考えていく。・中学校ブロック校と情報教育の現状や資料等を共有していくことで、ブロック全体で情報教育を進めていく。
担当 情報部	
キャリア教育	・たてわり活動を通して異学年交流、新治ラリーの活動を通して学年の役割を明確にし、活躍の場を設定できるようにする。グループごとのマスコットキャラクターを決めることで、仲間意識を高め有意義な活動を展開できるようにする。キャリアパスポートによる振り返りを通して、自分の成長に目を向けたい姿をイメージする。
担当 生き抜く力を高める委員会	